

まちなか来街者調査 概要版

令和 6 年 1 0 月

姫 路 市

— 目 次 —

	頁
I. 調査の概要	1
1. 調査目的	1
2. 調査日時	1
3. 調査場所	1
4. 調査対象	1
5. 調査方法	1
II. 調査結果	2
1. 回答者のプロフィール	2
2. 来街状況	3
3. 来街行動	4
4. 求められる店舗・施設・サービス・機能	5
5. まとめ	5

I. 調査の概要

1. 調査目的

本業務は、姫路市中心市街地における、来街者の回遊状況等を把握する調査を実施し、令和4年に実施した調査結果との比較を行うことにより現状を分析した。

また、調査・分析結果を中心市街地活性化に向けた、今後の施策検討等の基礎資料として活用することを目的とする。

2. 調査日時

令和6年9月8日（日） 10時～17時 天気：晴れ

令和6年9月9日（月） 10時～17時 天気：晴れ

3. 調査場所

中心市街地商店街内の3地点（次頁、調査場所 参照）

- ・ 地点A 姫路駅北にぎわい交流広場周辺
- ・ 地点B 姫路駅前商店街入口
- ・ 地点C 二階町商店街西側

4. 調査対象

中心市街地を訪れる15歳以上の男女（計 342 サンプル）

単位：人

	合計	男性	女性	その他	無回答
日曜日	185	66	109	0	10
月曜日	157	68	83	1	5
計	342	134	192	1	15

5. 調査方法

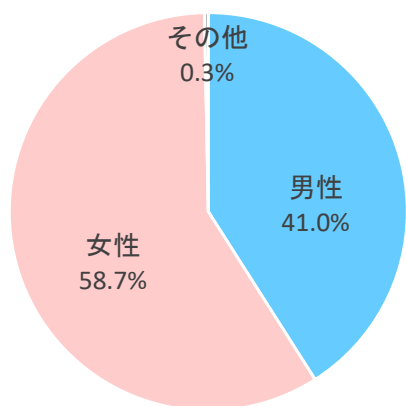
調査員によるアンケート形式のヒアリング（聞き取り）調査。

Ⅱ. 調査結果

1. 回答者のプロフィール

(1) 性別・年代

- ・男女比は、「女性」が6割、「男性」が4割となっている。
- ・年代は、各年齢層から回答が得られており、30代の割合が約2割と最も多い。



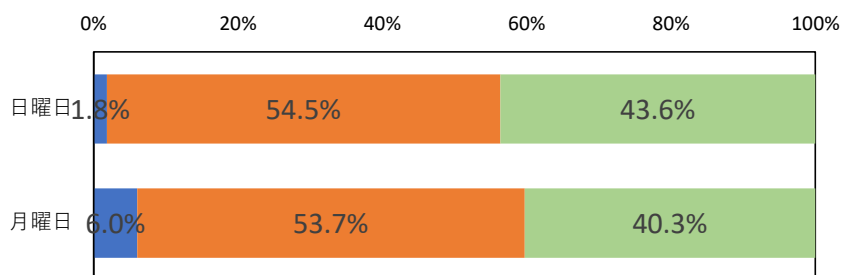
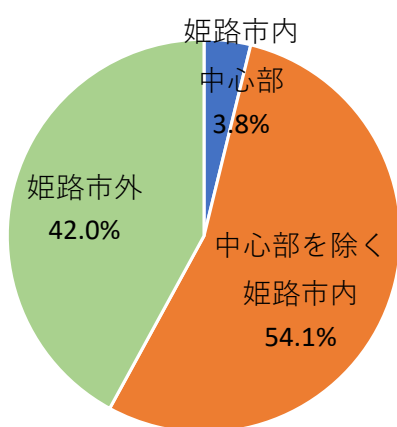
※性別「無回答」(15件)を除く



※年代「無回答」(12件)を除く

(2) 居住地

- ・回答者の居住地は「中心部を除く姫路市内」が約5割、「姫路市外」が約4割と多い。
- ・曜日別に見ると、月曜日は日曜日に比べて市内中心部居住者の割合が高い。



■ 姫路市内中心部 ■ 中心部を除く姫路市内 ■ 姫路市外

(%)

		合計	姫路市内中心部	中心部を除く 姫路市内	市内		姫路市外
					市内南部	市内北部	
		(人)	(%)	(%)	(%)	(%)	(%)
令和6年 9月	全体	314	3.8	54.1	32.2	22.0	42.0
	日曜日	165	1.8	54.5	31.5	23.0	43.6
	月曜日	149	6.0	53.7	32.9	20.8	40.3
令和4年 10月	全体	300	2.7	51.7	23.3	28.3	45.7
	日曜日	158	2.5	48.1	25.9	22.2	49.4
	月曜日	142	2.8	55.6	20.4	35.2	41.5

※令和4年度の居住地「無回答」(29件)、「市内不明」(32件)を除く

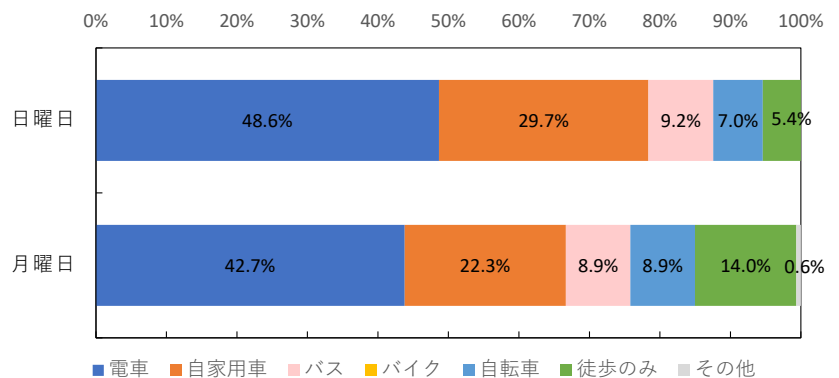
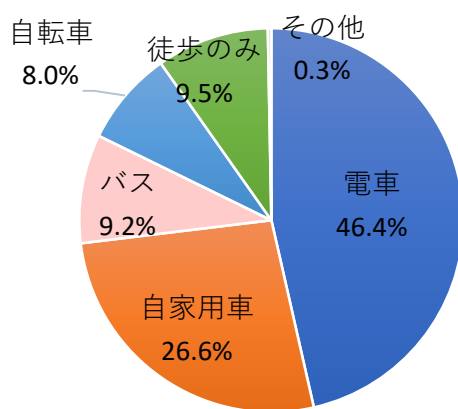
※令和6年度の居住地「無回答」(18件)、「市内不明」(10件)を除く

2. 来街状況

(1) 交通手段

- ・中心市街地までの交通手段で最後に利用したのは、「電車」が約5割で最も多く、次いで「自家用車」が約3割、「徒歩のみ」「バス」「自転車」が約1割となっている。
- ・曜日別に見ても、日曜日、月曜日ともに、「電車」「自家用車」の利用が多くなっており、日曜日の方が電車や自家用車の利用割合が高くなっている。
- ・月曜日は、徒歩のみの割合が1割以上となっており、日曜日に比べて利用割合が高い。
- ・令和4年に比べて日曜日、月曜日ともに「自家用車」「バス」「バイク」の割合が減少し、「電車」「自転車」「徒歩のみ」の割合が増加している。

<令和6年>

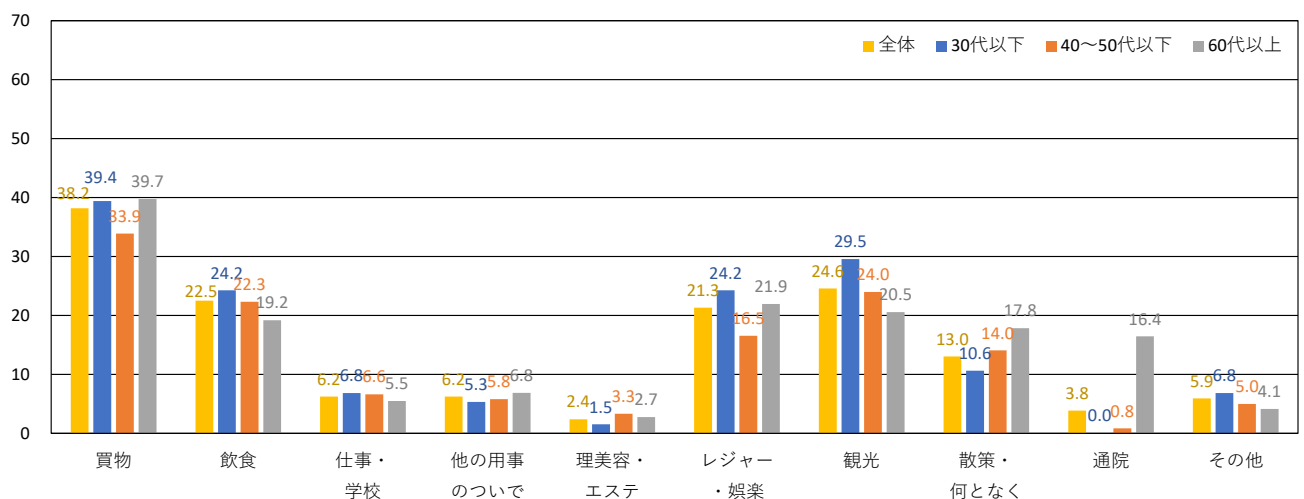


※交通手段「無回答」(4件)を除く

(2) 来街目的

- ・中心市街地への来街目的は、全体で見ると、「買物」の割合が最も高く約4割を占めており、次いで「観光」「飲食」「レジャー・娯楽」の順で多い。
- ・「60代以上」では、他の年代と比較して「通院」の割合が約2割と高くなっている。

(%)



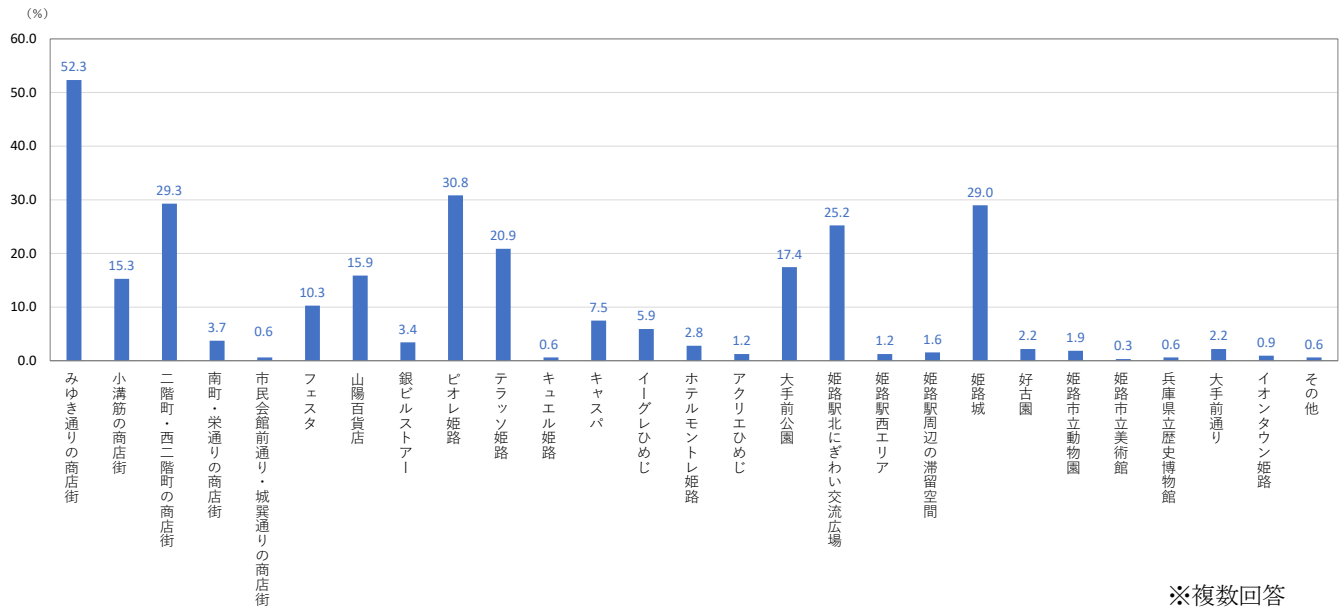
※来街目的「無回答」(4件)を除く

※複数回答

3. 来街行動

(1) 立ち寄り先

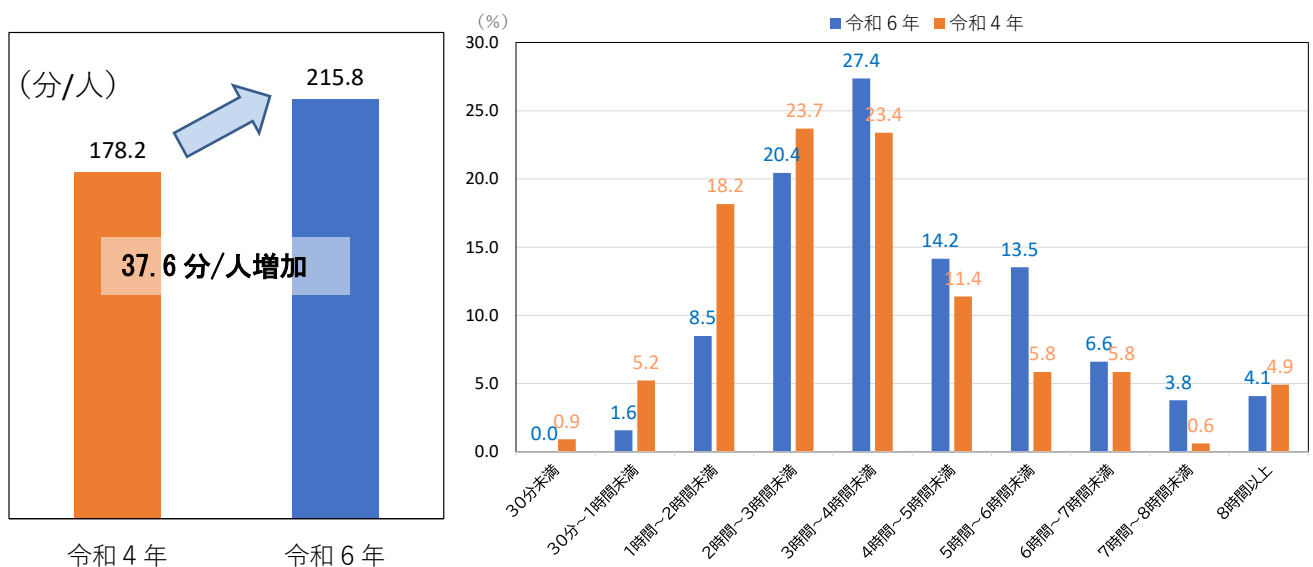
- ・予定も含めた立ち寄り先は、「みゆき通りの商店街」が最も多く、回答者の半数以上が利用しており、次いで「ピオレ姫路」「二階町・西二階町の商店街」「姫路城」「姫路駅北にぎわい交流広場」が約3割となっている。



※立ち寄り先「無回答」(21件)を除く

(2) 滞在時間

- ・中心市街地に滞在する時間は、1人当たり平均215.8分となっており、令和4年より約37.6分増加している。
- ・滞在時間は、令和4年は「2時間～3時間未満」が最も多かったが、令和6年は、「3時間～4時間未満」が約3割と多くなるなど、中心市街地での滞在時間が増加している。

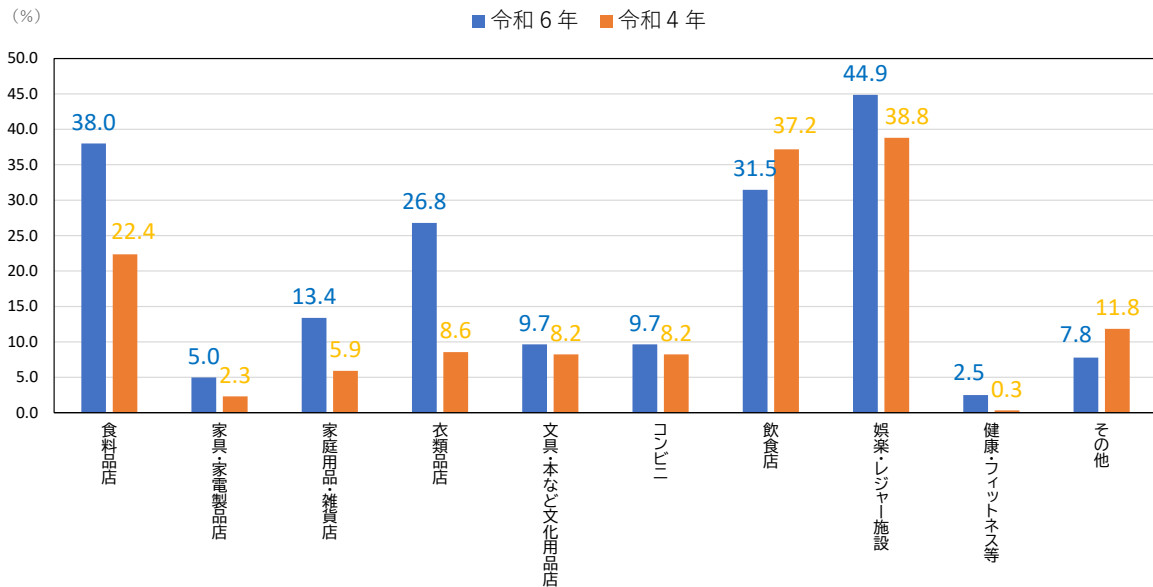


※令和4年度調査の滞在時間「無回答」(36件)を除く
 ※令和6年度調査の滞在時間「無回答」(24件)を除く

4. 求められる店舗・施設・サービス・機能

(1) 商店街で充足させるべきもの

- ・商店街で充足させるべき店舗・施設・サービスは、全体でみると「娯楽・レジャー施設」、「食料品店」が約4割と多く、次いで「飲食店」「衣類品店」が約3割となっている。
- ・令和4年と比較すると、「飲食店」の割合が減少し、「その他」を除くすべての項目において、割合が増加している。



※令和4年度の充足させるもの「無回答」(54件)を除く
 ※令和6年度の充足させるもの「無回答」(21件)を除く

※複数回答

5. まとめ

- ・中心市街地は、「買物」「飲食」「観光」「レジャー・娯楽」等、市民の日常生活の目的先だけでなく、市内外居住者の外食、娯楽、観光先となっている。
- ・中心市街地では、地域活性化のための取り組み（商店街の空き店舗の解消、大手前通りイルミネーション等）が行われており、令和4年度と比べて滞在時間が増加している。
- ・中心市街地は、大規模商業施設（ピオレ姫路、山陽百貨店等）の他に、商店街に数多くの店舗が出店している。特に商店街では、店舗の入れ替え等により新たな店舗の出店による中心市街地の活性化が図られている。
- ・中心市街地においては、「娯楽・レジャー施設」「食料品店」「飲食店」「衣類品店」などの施設整備が求められている。中心市街地は、市民、市外居住者、観光客など市内外から広く人が集まるとともに、子供から高齢者までが訪れる本市の中心地となっており、多様な来訪者がそれぞれのスタイルで楽しめる空間づくりが求められている。